

# こども通信

雪国にも春がやっときたようです。  
「冬は雪はわざか。暖冬」という予報通りでしたね。

3月は年度末。卒園、卒業といったシーズンにもなります。いろんな思いがあることでしょう。大切な時を、ゆっくりと過ごして下さい。

\* \* \*

このところ有名な方がガンになり、治療を受けるという話題が続いています。



水泳の池江璃花子さん。白血病であることを公表しました。日本のトップスイマーを襲った病気。日本中、いや世界中が驚きました。

ありません。

お見舞いや激励の言葉が寄せられていきました。彼女に寄せる思いの大きさが分かります。でも、もう一度競技に復帰し、来年の東京オリンピックに出場できるかを願う、な

どどこののはどうなんでしょうか。

医学・医療は進歩し、白血病も完治が期待できるようになりました。

何が起きるかは予断を許しません。しかし、思つ通りの結果にならないかつたり・・そんな時に、選手に戻れないことに苦しむことにならないか、心配です。

自分の存在と尊厳を大切に思い続けてほしい。アスリートとしてだけに生きる意味があるわけでは

あります。

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科

上越市栄町 2-2-25

TEL 025-544-7779(代)  
025-544-7779(保育室)

FAX 025-544-8456

各種ネット予約

[www.0255447777.com/i](http://www.0255447777.com/i)  
ホームページ  
[www.kodomo-iin.com](http://www.kodomo-iin.com)

## 感 染 症 情 報

インフルエンザが大きな流行になり、2月中は「警報」が発令されました。今シーズンは2種類のA型が同時に流行したために大規模な流行になったようです。今のところB型の発生はほとんどなく、このままであれば3月中には終息する可能性があります。引き続き、流行の情報も見ながら注意していて下さい。

手洗いをこまめにおこない、人混みへの不要不急の外出は避けましょう。もしインフルエンザらしい症状がある場合はマスクを着用して他の人にうつさないように注意を。もしごったりしている時には早く受診して下さい。

りんご病(伝染性紅斑)の流行も続いています。これについても「警報」が出されています。子どもにとっては頬や腕などが赤くなるだけの軽い感染症ですが、大人の方がかかると発熱や強い関節痛がおきます。また妊娠中の女性が罹患すると流産するおそれがあります。

感染性胃腸炎は少なめですが発生しています。食品の衛生管理や手洗い習慣をよろしく。

溶連菌感染症やアデノウイルス性咽頭炎も発生しています。

R Sウイルス感染症、マイコプラズマ感染症による気管支炎の発生もあります。

風疹や麻疹の発生は当地ではありませんでした。しかし、全国各地で流行があり、予防接種をしっかり受けておくようにして下さい。

有名人が病気になると医学や医療を拒否し、いわゆる民間療法を選択することも時々見られています。一部にはガンは治療しなくてもいいんだ、とんでもないことを口づける者もいます。

そんなことに惑わされず、しっかりと標準的な治療を受ける。それが一番大切なことです。治療がうまくいく、また元気になれることを祈っています。

## 今 月 の 予 定

### 院長出務

上越市乳幼児健診 6、20日

上越市夜間診療所勤務 20日

上越有線放送 「健康ライフ」19日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後 1:20頃～(76.1MHz)

### 感染症情報(毎週)

FM上越：木曜午後 1:35頃～

上越有線放送：月曜午後 6時～(番組内)

## スギ花粉が大量飛散

もうすでに花粉症で悩んでいる方

も多いことでしょう。春はスギ花粉が大量に飛散する季節。それに伴う花粉症は、今や国民病とも呼ばれています。

以前は大人の病気と言われていて、幼児にも決して珍しくありません。また高齢になつても症状が緩和せずに続いている方も多いであります。

花粉症になるのはスギだけではありません。スギに続いてヒノキがあり、秋にはブタクサ、ヨモギなども原因になります。

室内塵（その多くはイエダニ）に対するアレルギーも作られると、季節を問わず一年中、花粉症と同じ症状が続くことになります。

### ●花粉症の症状

花粉症は目と鼻のアレルギー症状です。目がかゆくなり、涙目、流涙、結膜の充血。目の周りが腫れてくることも。

### ●花粉症の治療

治療はまず抗アレルギー剤の内服です。以前の薬は眼氣が強く、あまり評判が良くなかったのですが、最近はあまり眼くならない薬も多くなりました。漢方薬も役に立ちます。

それぞれの薬には少しづつ違いますが、

鼻はぐちよぐちよとして、かゆみがあり、鼻水が多く、くしゃみが。子どもでは鼻づまりが強くなる傾向があります。

さらに程度が強いと、体がだるくなり、微熱がでて、風邪と間違えやすくなることもあります。

### お天気が良く、暖かい日の午前中

からお昼すぎに外にでると症状がでるのが特徴。この時、通常は目と鼻の症状が同時にきます。

夜に症状が強くなることも。これらは衣服や布団に花粉が付いているからでしょう。洗濯物や布団は室内で干すようにして下さい。

診断は容易。アレルギー検査で確かめることもできますが、多くの方は臨床症状だけでも判断できます。

あり、患者さんの症状を見ながら、また実際に使ってみながら薬を選択しています。

### こういった治療を、できれば花粉

が飛散する前から始めると良いようです。今年大変だった方は、来年は早めに対処してみて下さい。

### 免疫の働きを使った「減感作療法」

も進んできました。以前は成人が対象でしたが、現在は5歳以上で実施

本人が注意するだけではなく、周囲の方も家に花粉を持ち込まないよう、配慮してあげて下さい。

### ●花粉症の予防

が可能です。ご希望の方はお伝え下さい。

## 経験的漢方論（3）

### 胃腸炎には五苓散

前回、「五苓散（ごれいさん）」という漢方薬がお腹の病気に良く使っていると紹介しました。私自身のカンピロバクターによる細菌性腸炎も、五苓散のおかげで命拾いしたこと（大げさな表現ですが、本当にそう実感しています）。

五苓散の一番の出番は感染性胃腸炎です。カンピロバクターのような細菌によるものでも、ノロやロタといったウイルスによるものでも、五苓散は効果を発揮します。原因にかかわらず、吐き気や下痢を抑えてくれます。胃腸炎に伴う腹痛も緩和されます。

内服するとその場で吐き気がとれて楽になることが多いです。速効性があるのもこの漢方の特徴です。処方されたら早めに飲んでみて下さい。場合によっては、診察後に院内で休んでいる時に内服し、楽になってから帰宅してもらうこともあります。

吐き気が強く、水分すら飲めない時には五苓散を内服することは難しいですね。あるいは、漢方の味が問題なのか、飲めないお子さんも少なくありません。そんな時のために五苓散を坐薬を作り替えています。院内でこの五苓散坐薬を用い、吐き気が治まるのを待ってもらいます。

ただし脱水や低血糖になり、重症になっていれば輸液による治療が必要です。

五苓散は体内の水分分布の偏りを治す働きがあります。水の循環を良くすることで、こういった胃腸炎症状を緩和してくれます。

他の原因による吐き気にも効果があります。二日酔にも効きますので、どうぞお試しを。頭痛、乗り物酔いなどの効果は、また次回にお話します